福島第一原子力発電所現地確認報告書

１　確認日

令和８年１１月６日（金）

２　確認箇所

・Ｇ４南タンクエリア（図１）
・Ｆ２タンクエリア（図１）

３　確認項目

（１）ＡＬＰＳ処理水の移送状況
（２）Ｆ２タンクエリアの状況

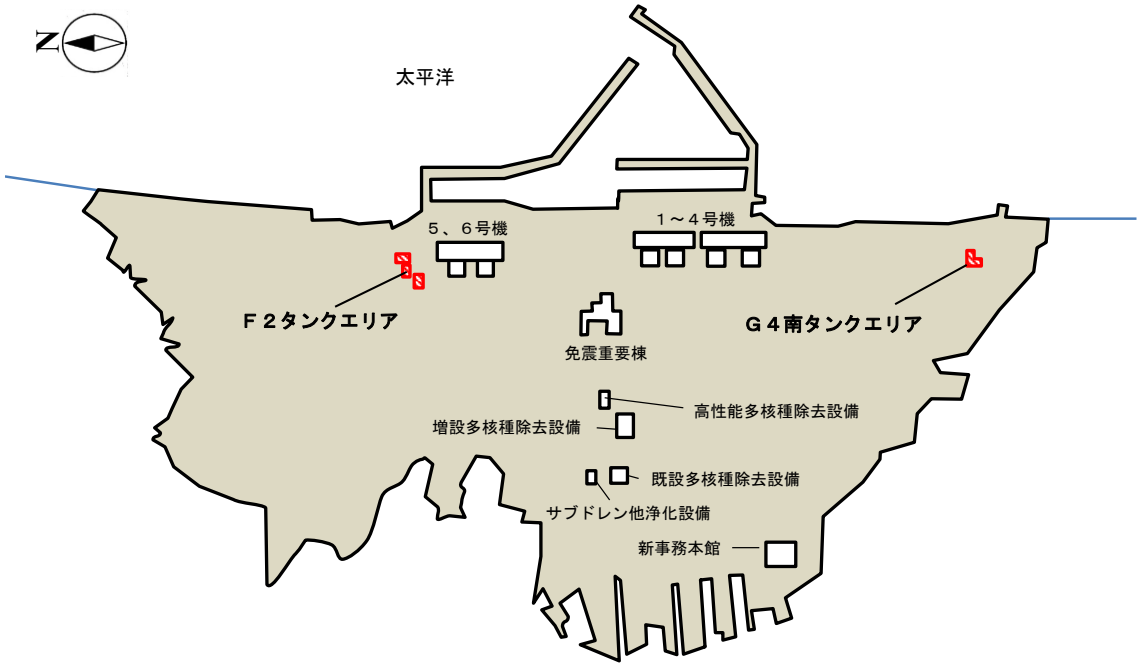
４　確認結果の概要

（１）ＡＬＰＳ処理水の移送状況

東京電力では、多核種除去設備等処理水（以下「ＡＬＰＳ処理水」という。）の海洋放出に当たり、希釈前のＡＬＰＳ処理水の放射性核種濃度や水質を測定し、トリチウム以外の放射性核種濃度が法令上の基準以下となっていることを確認している。また、トリチウムについても、ＡＬＰＳ処理水を海水で希釈した水について、東京電力は、法令上の基準（６０，０００Ｂｑ／Ｌ）を下回る運用目標（１，５００Ｂｑ／Ｌ）を設定し、当該目標値未満であることを確認した上で海洋放出を行っている。

今回、ＡＬＰＳ処理水の第２６回目（令和８年度第８回目）の放出に向け、移送元であるＧ４南タンク群から測定・確認用タンクのＫ４タンクエリアＢ群へのＡＬＰＳ処理水の移送が行われたことから、移送元であるＧ４南タンクエリア-Ｃ群タンクにおいて状況を確認した。（写真１）（前回確認：令和８年６月２９日）

・現場確認時には、作業員４名がＡＬＰＳ処理水の移送作業に従事していた。
・タンクと配管の接続部には養生が施されていたほか、移送ポンプ及び周辺配管の下部に漏えい時に液体を受け止めるための容器が設置されていた。さらにこの容器中には漏えい検知器が設置されており、漏えいの有無を監視できる対策が取られていた。（写真２）
・確認した範囲では、タンク及び接続配管からの漏えい等の異常は確認されなかった。



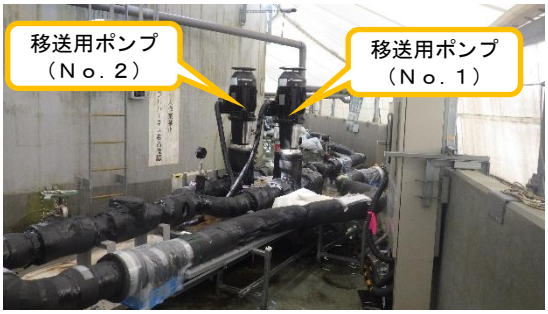
（図１）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真１）
Ｇ４南タンクエリア



（写真２－１）
タンクと移送用配管の接続部（養生が施され、配管下には受け容器が設置）



（写真２－２）
移送用ポンプ（現場確認時は、左側のポンプ（Ｎｏ．２）が稼働）



（写真２－３）
配管の下部に設置された受け設備



（写真２－４）
漏えい検知器

（２）Ｆ２タンクエリアの状況

福島第一原子力発電所のＦ２タンクエリアのタンクは、過去に、５号機及び６号機の原子炉建屋及びタービン建屋の地下に滞留した水（以下「５・６号機滞留水」）の一時貯留、油分分離等に用いられていた。当該エリアのタンクにはフランジ型のタンク※が含まれ、タンク内包水の漏えいのリスクがあることから、東京電力は、令和６年度までに当該タンクの内包水を処理して使用を停止するとともに、他のタンクエリアの溶接型タンクを用いて滞留水の貯留、浄化等を行う運用を開始した。

今回は、令和８年度から撤去作業が計画されているＦ２タンクエリアの使用が終了したタンク等の状況を確認した。（前回確認：令和８年７月１０日）

・前回確認時とＦ２タンクエリアの状況に変化はなく、撤去作業は開始されていなかった。タンク、堰等は腐食がみられるものの、確認した範囲で、部材の散逸等の異常は認められなかった。（写真３）

※ フランジ型タンク：複数個の部材（側板）のフランジ（縁の部分）をボルト等で接合して組み立てたタンクのこと。部材を溶接して組み立てたタンク（溶接型タンク）に比べて、フランジ型タンクではタンクの内包水の漏えいのリスクが高いとされる。



（写真３－１）
Ｆ２タンクエリアＡ群タンクの外観



（写真３－２）
Ｆ２タンクエリアＢ群タンクの外観



（写真３－３）
Ｆ２タンクエリアＣ群タンクの外観

５　プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。